

□ 発行/新潟県西蒲原郡西川町役場 □ 編集/総務課 □ 毎月10日・25日発行



老人慰問

十二月十三日から十八日にかけて、三小学校による老人慰問訪問が行われました。

この対象としては、八十歳以上の老人・在宅ねたきり老人・在宅重度身体障害者で鎧郷地区七十九名、曾根地区百四十六名、升郷地区五十九名計二百八十四名でした。児童たちは、放課後などを利用して一生懸命にカレンダー、折り鶴、くす玉、メガネケース、小物入れなどを作り、手紙を添えて贈りました。

この訪問では六年生が中心で、心をこめて作った品物をてれくさそうに手渡していました。

お年寄りのうれしそうな笑顔が何物にも代えられない最高の返礼だったようです。

長など女性の活躍が、我々が思ったよりはるかに職場に浸透していた。

今、中国では十億という人口をかかえているわけですが、八割が農業になんらかの形で従事しているとのことである。そのため農業工場などほとんどは二交代、あるいは三交代で、休日も日曜日に休むのではなく一週間のふりわけているのである。一緒に日曜日に休むと、国は破産するそうである。それにしても、どこへ行っても人間の多いことといたらほんとうに驚いた。また、これらの人口問題として、『晩恋・晩婚・晩育』などのスローガン、あるいはテレビなどで提唱し、また子供も一人子ということだといふ大事に育てられているようである。

人民公社は、農業だけでなく、工業をも営む生産組織であり、ことに農機具の製造と修理の工場はどこでも見うけられ、簡単な設備で鉄さえ作っていたのである。こうした工場労働、農業労働もできる勤労者の育成につとめていた。

また、公社の社員が選んだ代表(管理委員会)が村の行政機関の仕事をもやっている。この機関は、国家の資金などに頼らず人民公社自身で、小学校、中学校、病院、幼稚園などがつきつきに建設され、中国における「四つの近代

化」への道を突進中であることをひしひしと感じた。

上海七一人民公社では、三つの変化があらわれたという。一つは新しい建て物の増加、あるいは二階建てのレンガ造りの家が七割以上もふえたことであり、二つ目は電気製品の増加である。テレビ、ラジオ、扇風機など、そして三つ目には、貯金が一人当り三百五元にあふれたことであるが、三つの変化を総合すればだいたい進歩したように思えるが、まだまだ我われ日本と比較すれば遅れているようである。

二の人民公社では、稲二期作、麦あるいは野菜などの三毛作で、野菜などは、一千種類にもおよび四季を通じて食べられ、国の集荷計画にしたがって契約を結び市場へと出荷され余った分を青空市場で自分のものとして売ることができ、家計の副収入となる。

稲作の収量は、一ヘクタール当り、早生五千三百四十キロ、晩生で三千八百キロで、現在の品種は桂農十二号といわれ、草丈は短く約七十から八十粒位の着粒数、坪約百二十株植え、除草剤はほとんど使用せず人手で草取りを行ない、肥料は、堆肥がおもであるが、化学肥料、畜肥、緑肥などとう量量の肥料が入られるが、それでも地力低下が激しく二毛作にき



◀ 中国の家

ここは台所の一部で、カマ、食器棚およびテーブルなどがありました。なお建築して二年になり、台所・客室・寝室があつてトイレはなく、84万円で建ったそうです。日本とはちょっと作りが異なっていました。



中国を訪ねて

天竺堂 熊倉 一仁

十月十五日から十七日の八日間「わたり、熊倉一仁は新潟県農業青年友好訪中団の一員として、合計三十一名のメンバー、中国の農業の現状視察をこの地へ来た。

我々、新潟県農業青年友好訪中団は、杭州の四季青人民公社、蘇州の長青人民公社、上海の七一人民公社を八日間にわたりそれぞれの日程で見学させてもらった。

成田から上海空港へ約三時間、中国大陸が見えて来た時、区画整理してある水田、たて・横へと河の流れが見えて来たのであった。

中国第一歩、日本とはまるっきりちがう異様な雰囲気と中国特有のにおいであろうか、鼻につくものがあった。また、バスで移動中見

えたニグルマ、てんびん棒で荷物を運ぶ人々、レンガ造りのかたんな家いえなど私はまるでタイムトンネルでも入ったような気持ちであった。

一九四九年、現在の中国が誕生し、地主、高農、中農は解体され、貧農、雇農に配分したのである。また、一九五三年には互助会が組織され、その後合作社、または集団所有制が発足、一九五八年に各人民公社が出来て現在にいたっている。

北部が、交通の主流が馬車であるのに対して、揚子江以南では水路が四方八方に通じ、重要な輸送手段となっており、蘇州の町を流れる河などでは、レンガ、野菜、果物など舟で町の中心部などへ運ばれていた。これらの河などは、中国が成立した翌年に、延べ数千万の人間を動員して、河の治水工事が行われたのである。また、これらのうち、小規模の水利工事はすべて人民公社が自分たちの力で工夫を加えながら作り上げたもので、全地域とも河の網でおおいう河網が完成していた。また、土手などには草、あるいはスキキなどはあまり見あたらず、一部では、目留地、あるいはアヒルの飼育などに活用していたのには、さすが頭のさがる思いがした。また日本の減反政策で一等地の農地に青刈り、

りかえられる方法が考えられ、多収性、耐病性による、品種改良が行なわれつつある。

これらの農業での土地利用の高度化、あるいは二十一世紀までには四倍の所得をあげようと、一体となって努力している姿には感心させられ、日本の明日の農業に役立つことを誓わずにはおられなかつた。またこの訪中団の研修に参加できたことを感謝し、今後の活動に役だてたいと思う。



▲ 二連式バス

運転手は女性でした。なお、自転車はほとんどの家庭にあり、通勤・通学につかわれていて、庶民の大切な足になっています。

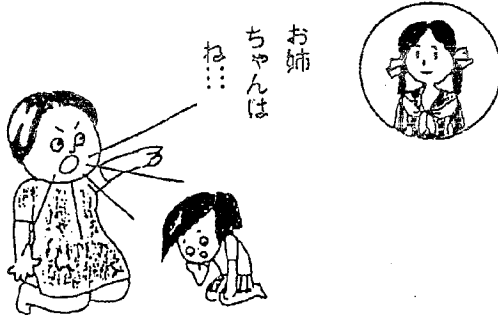
あるいは雑草の生い茂る水田がめだつ今日、何か考えさせられた一面であった。

これらのもうけ分は自己の分となり、工場などのもうけ分は道路建設、橋、定年退職などに利用し、月給制として給与があたえられ、

農業の場合は、一日の作業を点数として与え、年末の配当となり、農業で災害があつた場合には、工業のもうけ分で支払いがある。またどこへ行っても男女差別がほとんどなく、汽車の車掌さん、二連式バスの運転手、生産隊の事務室

子供を悪くしやすい親の態度

◇ 兄弟や友達を引き合いにしてけなす



(西川町青少年育成町民会議)

年末年始の 役場事務等の案内

役場の窓口事務
住民課(戸籍、住民、印鑑関係
事務)、収入役室十二月二十九日
(例)平常どおり、三十日(例)正午まで
です。
福祉会館
十二月二十八日(例)から一月三日

(月)まで、及び十五日(土)を休館しま
す。
西川 荘
十二月二十八日(例)から一月三日
(月)まで、十五日(土)から十七日(月)を
休館します。

第一回 元旦 サイクリング

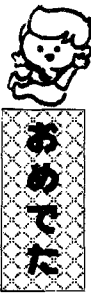
(弥彦神社まで初詣)

期 日 昭和五十八年一月一日
(土)(ただし雪・雨天は中
止)

集合時間 午後零時、出発 午後
零時三十分
集合場所 福祉会館前
コース 福祉会館→下山→岩室
→弥彦神社→岩室→下山
→福祉会館

参加対象 中学生以上の者
※なお詳しくは次のお店に問い合
せ下さい。
サイクリング相談店
☆はやかわ輪店(四番町)

町民のうごき



氏名 佐藤 恵 三春 第二区
生年月日 保通寺 部 席

TEL 二二六五
☆こばやし輪店(八番町)
TEL 二二五七



西川町婦人協議会
会長 高橋 支恵

一田玉募金の 御礼

役に立てて頂きます。
「ちりも積れば山となる」と昔
から言われておりますが、一円も
積れば驚ろく程の金額になるもの
と、今更のように「協力」の偉大
さを感じると共に、町民の皆様
のあたたかなお心持に対して深く感
謝致しております。ほんとうにあ
りがとうございました。来年もよ
ろしくお願い致します。誠に簡単
ではございますが、紙上で一言お
礼を申し上げますと同時に報告
致します。

月日のたつのは早いもので、今
年も雪のちらつく師わすになりま
した。先般お願い致しました一円
玉の募金、今年も皆様のご協力に
より後記の通り多額になりました。
早速それぞれの施設に贈り、お

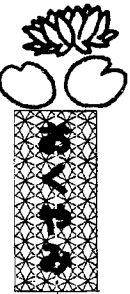
鑑郷地区	二八、二四八円
曾根町部地区	八五、四六三円
曾根農部地区	一八、一八二円
升湯地区	二一、二五五円
合計	一五三、一一八円



長谷川むつみ 宏昭 六分
高橋 謙 厚志 平野

氏名 田原 春之 住吉五 部 席

二村 一美 二村 二 九番町
(山田) なつ子
渡邊 俊美 渡邊 藤菜 三ツ屋
(齋藤) 幸子



田原 春之 田原 春之 第二区
(武田) 三枝
真島 健 真島 義一 押付
(佐藤) 恵子

氏名 本間 ミチ子 年 85% 兼吉 矢島
小林 平作 72% 本人 川西
山岸 ミヨ 93% 年雄 浦村